あいさつ運動の好事例

備前市立吉永中学校

（生徒数１１７名　教職員数２８名）

小学校に出前あいさつ運動！
～ 小中連携の取組 ～

アピールポイント

小中連携ができる機会であること。
中学生としての自覚を持たせる良い機会であること。（リーダーの育成）
地域と連携していること。
小中学生のコミュニケーション能力の向上につながること。

実際の様子

取 組 の 概 要

■児童生徒の実態

吉永中学校では、「吉永ブランド」を目指して、日頃から生徒会を中心に大きな声であいさつすることに取り組んでいる。また、小学校の先生の「小学生はより大きな声で元気にあいさつができるようにしたい」という願いから、出前あいさつ運動を昨年２学期より行っている。今では、小学校の児童も、笑顔で大きな声であいさつができるようになり、中学生が来る日を楽しみにしている。

■活動内容

中学校の生徒会本部役員が、月２回朝のあいさつ運動として、小学校の校門で出前あいさつを行っている。大きな声であいさつ運動ができた児童には、中学生がしっかりとほめ、メダルを渡すことを計画している。

■取組の参加メンバー

小中教職員、児童生徒が参加。生徒会本部役員が中心となって実施。

■成果・効果

小中学生があいさつ運動によってふれあうことで、小学生は中学生にとって大切な後輩であるという感情を育むことができ、結果として中学生にリーダーとしての自覚が芽生えた。それにより、中学生は小学生にとって良い理想像になった。

小中や地域が連携してあいさつ運動を行うことで、児童生徒の様子や学校の取り組みを情報交換できた。